

令和3年度 授業改善推進プラン 中学年

| | 令和2年度授業改善プランの検証と調査結果の分析 (○はおおむねできていること、△は課題があること) | 授業改善策 (○よいところを伸ばすための方策、△課題を解決するための方策) |
|----|--|--|
| 国語 | <p>○互いの考えの相違点や共通点を考えながら話したり、聞いたりする活動に意欲的に取り組むことができる。</p> <p>○登場人物の行動や気持ち、内容を読み取ることができるようになってきた。</p> <p>△段落の構成を考えて文章を書いたり、内容の中心を明確にして自分の考えを書いたりすることに課題が残る。</p> <p>△漢字を正しく読んだり書いたりする力に課題が残る。</p> | <p>○意欲的に話すことができるような場やテーマを設定したり、相手意識をもたせるとともに、何に気を付けて話したり聞いたりすればよいかを明確にしてから活動する。</p> <p>○物語文の学習で、登場人物の行動や会話から叙述を基に気持ちを考える学習を引き続き行っていく。個人で十分に考えさせた後に、全体で考えを共有する時間を設け、物語の内容理解を深められるようにする。</p> <p>△物語や説明文の学習で各段落の役割や、まとまりを押さえ、段落構成を意識した読み方を理解させる。また、筆者の主張を捉え、内容の中心や筆者の考えに対する自分の考えを明確にさせ、書く時間を授業の中で十分に確保する。</p> <p>△漢字の定着のため、学習の始めにデジタル教科書の漢字カードを使って漢字を確認したり、書く時間を設けて、漢字を継続的に学習したりする環境を作る。また、小テストを行い、漢字を正しく書くことを意識させ、学力向上へつなげる。</p> |
| 社会 | <p>○地域の安全を守るための活動や地域の産業と消費生活の様子について理解が定着している。</p> <p>○資料に着目して、わかったことを表現することができる。</p> <p>△地図記号について定着していない。</p> <p>△地域の様子やその移り変わりについて人々の生活とその関連を踏まえて理解したり、資料からどのように調べていくかを考えたりすることに課題がある。</p> | <p>○集団での見学が難しいときには、ICTを活用したり教員が取材した材料をもとにしたりすることで、課題を「自分事」にさせ、児童自らが学習問題を立て、主体的に問題解決できるように教材との出会わせ方を工夫していく。</p> <p>○資料を読み取り、読み取ったことを表現させる活動を多く取り入れていく。また、授業の終わりに、その時間に分かったことについて自分の考えを書く時間を作り、考察し、表現する機会を増やしていく。</p> <p>△都道府県や地図記号については、ビンゴやカルタなどの、楽しく覚えられるような教材を用いたり、慣れ親しむ場を設定したりして、より一層の定着を図る。</p> <p>△郷土資料などを活用し、今と昔を比較しながら、大田区の移り変わる様子が、視覚的、体感的に理解できるようにする。</p> |
| 算数 | <p>○簡単な計算や小数・分数の計算などの処理ができる児童の割合が高い。</p> <p>○図形の性質や用語についてよく理解している児童が多い。</p> <p>△2けた以上のかけ算や、あまりのあるわり算の理解度が低い。また、数が大きくなったり、3つの数の混合式のような手順が多い計算になったりすると理解度が下がる。</p> <p>△文章から場面を想像したり、正しく立式したりする問題では、正答率が低い。</p> | <p>○計算が正しくできる児童が多いので、さらに速く正確にできるように、反復練習をする。</p> <p>○具体物やICTを活用し、図形の特徴を視覚的や感覚的に捉えさせ、図形についての見方や感覚を豊かにする。</p> <p>△タブレット学習や百マス計算等、短時間で集中してたくさん計算問題を解く活動を積極的に取り入れ、基礎の定着と計算力の向上を図る。また、手順を掲示したり、自分の考えを説明し合う活動を取り入れたりとすることで、計算の順序を理解させ、定着を図る。</p> <p>△文章題の問題場面を理解しやすいように図・絵・表などの工夫を取り入れ、具体的に問題の内容を把握できるようにする。また、その図から立式させることで文章と式の関係の理解を深めさせる。</p> |

| | | |
|----|---|--|
| 理科 | <p>○「昆虫の育ち方」、「電気の通り道」に対しての関心が高く、観察したり、実験したりする思考と知識を問う問題の理解度が高かった。</p> <p>△「昆虫の体のつくり」や「風やゴム、音の働き」についての思考を問う問題に対しての正答率を高めていくことが課題である。</p> <p>△4年生の学習内容では、観察や実験の技能に関する問題の正答率が低いため、正しい方法での観察や実験をし、問題を解決させていくことが課題である。</p> | <p>○動植物を観察する機会を多く設定し、生き物に直接触れさせたり、ICT教材を活用して詳しい部分まで視覚的に理解したりできるようにすることで、自然事象に関する関心を高め、知識の定着を図る。</p> <p>△予想、実験、結果、考察の流れを意識して授業を進めるとともに、一人一人が自分の手を動かして、予想したことが実験を通して確かめられるよう、教材準備の工夫をしていく。</p> <p>△より科学的な思考力をともなう学習内容になるにつれて、直接見たり触ったりする機会が減り、観察や実験の技能が十分に育っていないと考えられる。直接触れる機会を増やすことで、理解を深め、知識をより確かなものにしていく。</p> |
| 体育 | <p>○運動に対する意欲は高く、進んで運動に取り組んだり自己のめあてに向かって努力したりする児童が多い。</p> <p>○学習カードに記録することにより、努力の成果を認識できた。</p> <p>△自分の課題を見付け、それを解決するための練習方法を考えたり、練習の場を選んだりすることが難しい。</p> <p>△器械運動（鉄棒）の支持系の技や逆さ感覚を苦手とする児童が多い。</p> | <p>○児童の実態に応じて、ルールや場の設定を工夫し、児童が自ら課題を見付け、解決していけるように計画を立てる。</p> <p>○学習を振り返り、気付いたことや考えたことなどを友達と交流し、深める時間を設ける。</p> <p>△技能ポイントを視覚的に表した学習カードや掲示物等や、ICTを活用して試技を撮影したものを見て、自分に合うめあてをもたせる。また、児童のめあてに即した場を設定し、児童が主体的に選択し活動できる環境を作る。また、アドバイスし合う活動を意図的に取り入れる。</p> <p>△鉄棒のみの練習ではなくマット運動など、床で体を支持したり、回転したりする中で逆さ感覚や支持系の技に慣れていく。</p> |
| 音楽 | <p>○音楽の表現活動に意欲的に取り組もうとする児童が多い。</p> <p>△拍にのりながら、他の音と合わせる力に課題がある。</p> <p>△歌唱において、音程や発声に課題をもつ児童が多く見られる。</p> | <p>○音楽に対する感性を、より働かせられるように、自己のイメージや感情、生活や文化に関連付けて表現する活動を充実させる。</p> <p>△常時活動として基本的な音価でリズムリレー、リズムの呼びかけとこたえ、リズムカノンなどの形式を取り入れ、拍感をもちながら音楽を聴き合う基礎力を向上させる。</p> <p>△旋律の上がり下がりやリズムを手の動きで表したり、歌う表情や発音を意識できるように録音などをしたりして自分たちの声を客観的に聴く活動を増やす。</p> |
| 図工 | <p>○全体的に、造形活動に意欲的に取り組むことができる。</p> <p>○表したいことに合わせて用具を適切に使い、材料の特徴を生かす力が育まれている。</p> <p>△既習事項を生かし、自分なりの表現方法を見つけて、表したいことを表す力をさらに付けたい。</p> <p>△造形活動では、一人一人が自分の活動に自信を持ち、思うままに活動を進めていくことができる力を、さらに育てていく。</p> | <p>○児童が興味をもつような題材設定を工夫し、自己表現する喜びや達成感を味わわせる。</p> <p>○様々な材料や道具に触れる機会をもち、形を変えたり組み合わせたりするよさや面白さを味わわせる。用具を適切に使いこなせるよう、児童が理解しやすいように、ICT機器を使いながらポイントを明確にして、見せる。また、机間巡視しながら個別に支援する。</p> <p>△一度使ったことのある道具や材料をすぐに使えるような状態にするなど、場の工夫をする。既習事項を生かしている児童の作品を紹介するなど、価値付けを行う。</p> <p>△黒板に、授業の大まかな流れを書き、児童が確認できるようにする。児童に指示する内容を精選し、説明を短くすることで、児童自らが考える時間を、十分にとる。</p> |